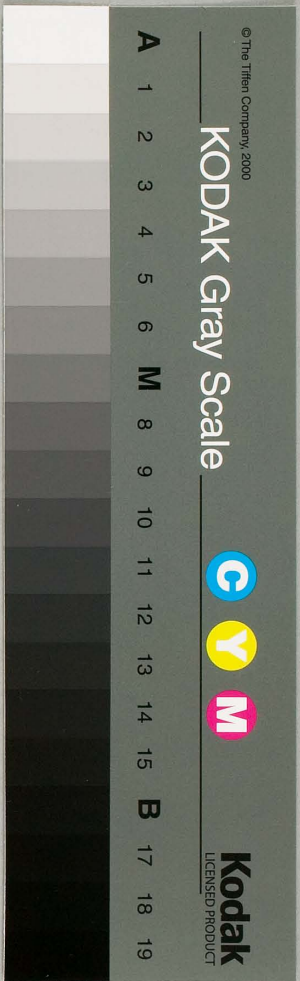


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8



0435

攝津名所圖會

切部四上



291.6309

Ak

4

攝津名所圖會卷之四

目錄

- | | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|-------|------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|
| 大坂之獅 | 浪速男 | 大江浦 | 系橋 | 大將軍社 | 大満系 | 朝来池 | 宗因墓 | 楠倉山 | 護摩堂 | 落天神 |
| 難波津 | ふたひ女 | 御津 | 川寄御宮 | 野見祠 | 免餓野 | 寶珠院 | 大満菜蔬市 | 不初堂 | 愛深堂 | 眼八幡 |
| 難波里 | 坐摩神社 | 大江橋 | 有樂三升 | 神主境内 | 明星池 | 興正寺 | 小聖天神 | 神明宮 | 釋迦堂 | 龜松 |
| 浪花人 | 大江原 | 鉾流寄 | 大満之神宮 | 靈符神 | 日羅塚 | 經子祠 | 梅家 | 大融寺 | 堂岩市 | 五の井 |

武庫川女子大学図書館

昭和 年 月 日 29/6/87

Ak

112090

4



大江坂鳧淺

同錦高田宮

内平堂町神明

大世屋車

樓屋敷

呉服屋

飛禽鋪

虎屋春藏

御靈社

佛光寺懸所

芭蕉終焉地

貞柳蹟

津村御堂

佛堂 二尊堂 鼓樓 待所

對面所

油懸地蔵

難波御堂

唐堂 待所

順慶町夕市肆

油懸地蔵

難波仁德帝社

現成化蹟

梅櫃本

三津八幡

難波茶師

藥師堂

茶湯地蔵

聚樂館古蹟

三津寺

朝日神明

寶泉寺

高津社

醫生見宜堂

寺岩清水

頰燒地蔵

道頭堀

庚申冢

高臺御哥論

上小竹葉野

哥舞伎樂戶

日本橋

二ツ井

機拔戲場

難波新比大相撲

戲棚梨園

名真町行廬

名真町裏景

難波新比大相撲

四橋 煙管肆

堀江

石濱

永代渡千鶴市

難喉場

廣教寺

敷屋町龜糸

新町橋 津園井

新町傾城廓

九軒町

砂場

白洲寄

堀江市之側

白洲岬觀音

和光寺

白洲寄

愛染堂

茶師堂

淋香地蔵

本堂 同額

阿蘇地蔵

敷津浦

博勞洲

丈佛岩

材木市

諸侯船

安治川

瑞見山

御船舎

河口

一之洲 細船

漆標

潮見櫻

難波沖

難波浦

難波江

難波海

浪速道

難波直

柏關

浪花水門

難波五柏

庁葉芦

柏關

樓岸

攝津名所圖會卷之四目錄

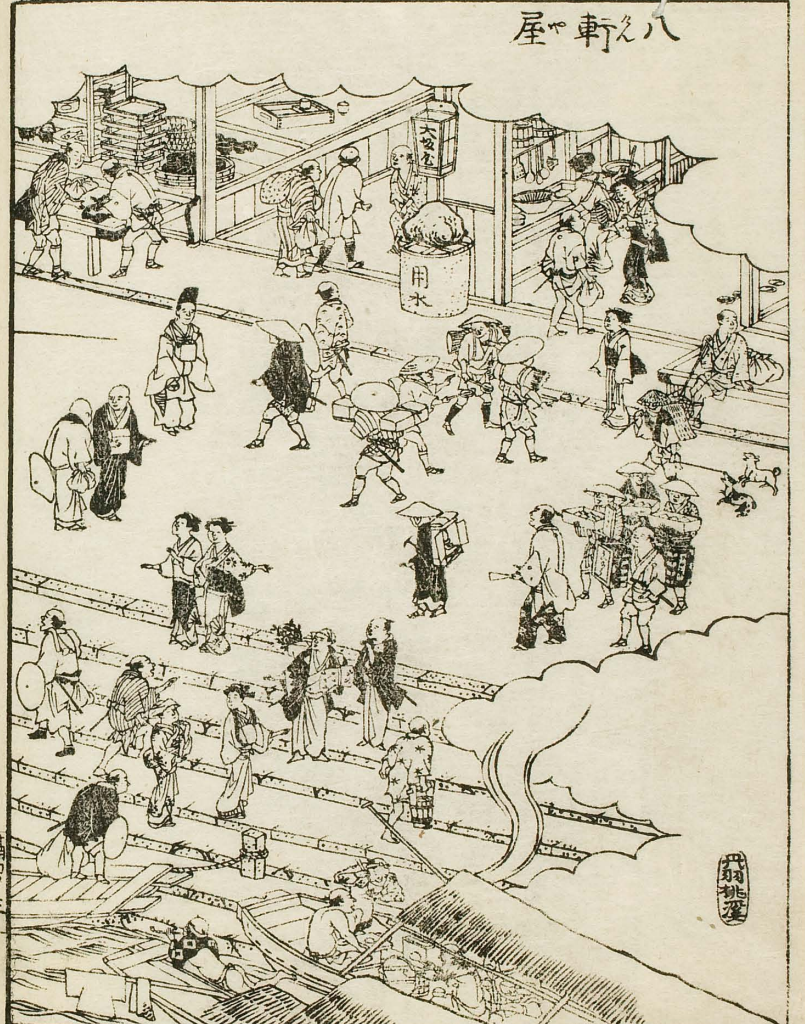




豊後高田五城より
 舟中やあはれく糸作
 上下の舟の船客の如
 出るはる者の船客の如
 終るはる者の船客の如
 大丘岩大江浦とついで
 今も糸作舟三河川に目
 比ぶるはる者の船客の如
 土俗八州をく地名は

大江岩
 又大江浦
 玉と川
 又江乃浦に
 舟の
 舟の
 舟の
 舟の

井上



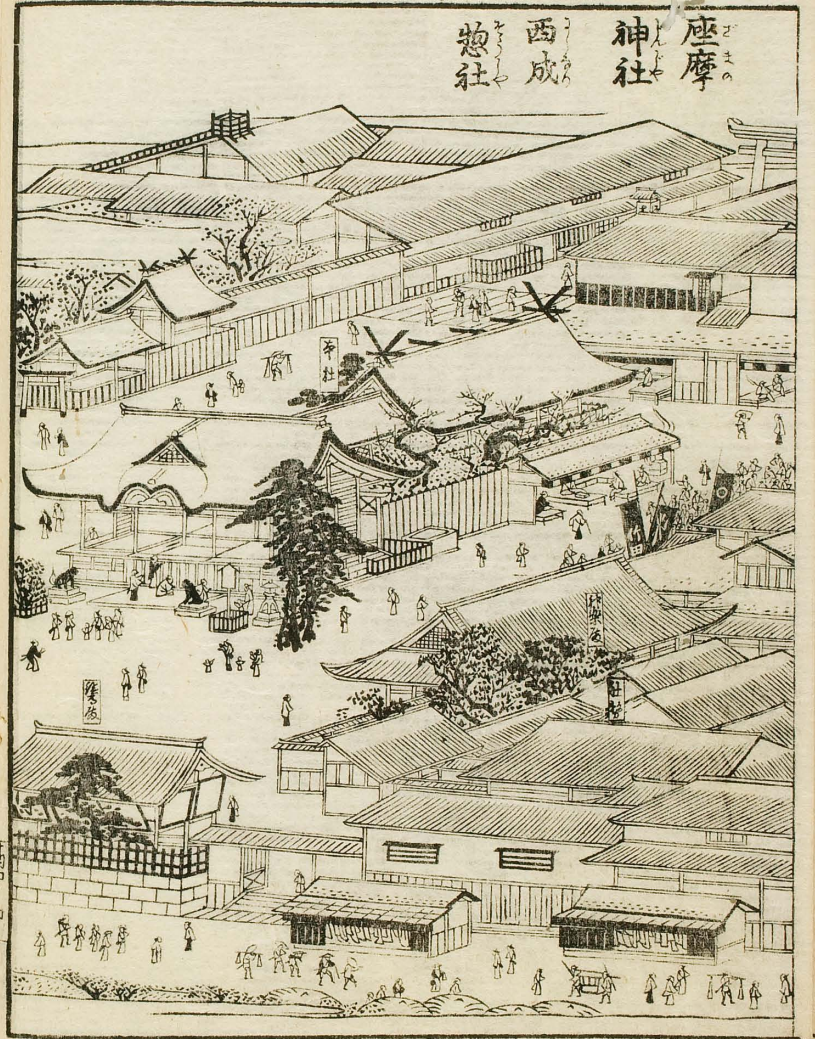
八軒屋

八軒屋

井上



新亭
 正法人の
 福の子
 みのれ
 徳也
 心浄いさ
 善の
 善の
 善の
 善の



西成
 惣社
 神
 座
 座
 座

万葉

後撰

拾遺

千載

新古今

江家次

第百二十肩あり

八

十

嶋

祭

日

到

難

波

津

官

主

作

壇

國

之

司

置

祭

物

女

官

内

藏

寮

官

人

等

以

御

衣

案

立

官

主

前

典

侍

車

并

出

車

等

列

立

官

主

座

東

北

西

難波里

その名の難波の里は夕をみ阿の表のいふ林風と吹
ほの園はふたそのをせしうあははうたを歩海士の釣船
波の難波の里はあは月をむそや結ひはるん

信實

難波人

日本紀曰仁徳天皇御歌 那理波聲苦人便儒赴江
難波人芦火くやあそとにさう妻を産つては
浦風や難波かゝあそ人芦火くやあそ川さう
難波人山振さうさうさうさうさうさうさうさうさう
津の島園廻船の水門あそを諸州の人物貴とく財とわく
くかく入交の地はあそさうさうさうさうさうさうさう
粗其名園はえ祿七年の頃北新田候家小土質七去清又本町
二丁目小平を清侍を清のおそひの者之文は年あは
はあそ 初糸糸 長糸糸 糸糸糸 糸糸糸 糸糸糸
あり犯罪の事ありく洗小刑おつてさうさうさうさう
と願うて遂母父の命を助さうさうさうさうさうさう
五年小文満若井町籠細工然次糸 糸馬之助 南同所小籠心賞

権修實話

等持洗賤

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

たはは

坐磨神社

船場の中央あり延喜式神名帳に在り神社大月以相堂新堂

勅額あり伏見院勅額あり社名坐磨神社とあり又菅公奉徳の

一社の神社され元來西成郡の生主神の例を六月廿三日九月廿三日十月十六日

祭神 生井神 福井神 細長井神 三津井神 小竈神 二層と云く多る神名と

攝社 田養神社 修善寺社 末社 多賀祠 壺符祠 八国玉祠 八幡祠 人丸祠

神樂殿 本社あり 繪馬舎 社樂殿あり

折富社の鎮坐ハ神功皇后十年也二釋より神凱陣より神武天皇の御

勅を幣為風雨初之延喜式云凡坐磨並取都下國造氏童女七歳已上者充

之若及塚時充替云其外論旨諸將所教書初預者若附狀等神庫且

瓜む又難波大社の神鎮座ありゆふ社の南に難波所と云他人社勢の

恒新の少公渡辺所といふ夏後の神事ハ神樂之儀新儀(渡)と奉慶若良

おとしく遠也と云く壯麗なる奈式之特ハ神社の難波市街

繫帯の中ねれ若小治人多く市店社若小連と共活觀也ありと

賑々たる皆神徳の輝光なり

御旅所 名所ハ坐磨所あり其名所を後の名ありされ坐磨の所法府あり小なり

大江原 古来の山に據りて大江原南丸今の八軒原の傍あり是より南乃方

一橋二名あり八軒原といふは板倉八軒原ありと末所の山上に

おとしく盛とれく入船出船なりと嘘ハ此地都く夏のま

いふと風土のあり

いふと大江原の原をせりて坐井又見ゆる生駒さうか

船崎の勢もあつた成りたり大江原乃さみくれの尻

まみれ月夜をれといふの大江原の原をいふさうさう

大江浦 平難波齋圖六面と訓持さうさう大江浦之尻

玉藻の大江浦浦に風をけりて花も散ぬる

御津 皇居の津なれ御津といふ地は大江原より後若小到る三津渡三津浦

三津渡等の右にあり又三津渡津難波津と三津といふ俗説に

長後 良運法師 隆法法師

古事記 仁德天皇者 嬪八田若 即女而 齋夜 戲之 遊
 中畧於 是太后大 恨怒 載其 御船 之御 網拍者
 悉 投棄於 海故号 其地 謂御津 前也

万葉 大伴の津津の濱小舟を忘れ貝のふあふは谷口はまそをへ登 身入都王

古本 押照や難波の三河小焼陸のやうともあち老やけるこの都 懐人志し哉

法親 難波津とやふきみの浦毎小これやけ世成うみ波る船 業平朝臣

新古 いこみともを日本へ大伴のみ川の濱松まらこひあらん 山土憶良

後古今 公あらん人のこちとや慮むらんかすはのこ津のまれの朗 後吉羽院

玉葉 老の浪あか志川のあ若う代とま村をちまて三河乃濱風 陸信

漆繪 松まら三河の濱はま子香ひくのあす乃や付ける 土清門陸

新千 立田ふ夕 難若ぬ大伴乃三河北泊年や替らん 家隆

又本 杖の板なれ替まひく大伴の三河の泊と夜う川らん 終法隆

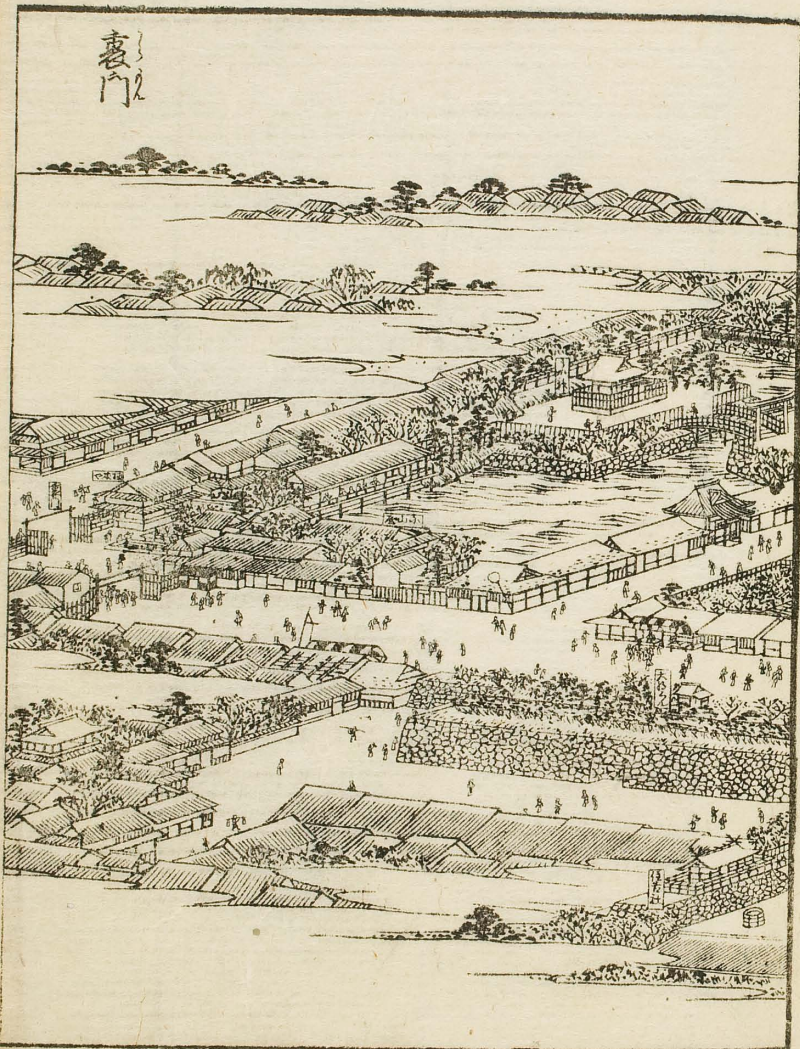
日 三河の浦小玉藻やうたかく海士人もつら心う社われは 夜多内倉

まの色い々ふあを三河のうらやみあの若葉とあはぬ白波 定家

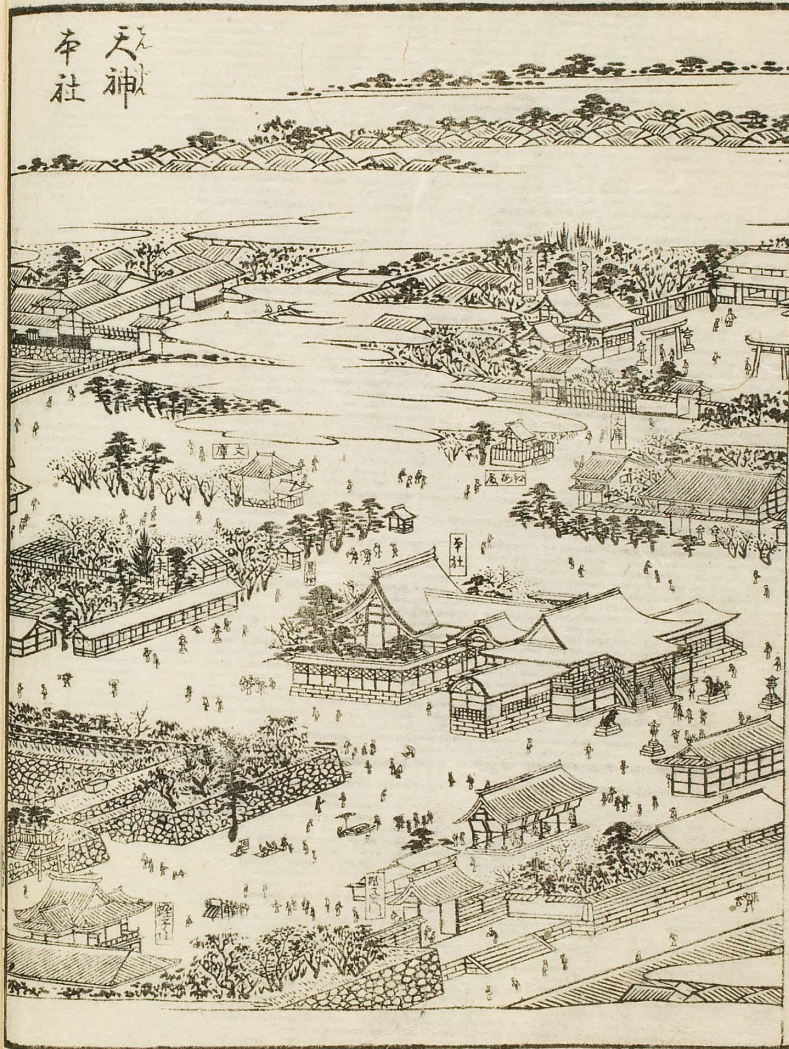


天満大神宮

裏門

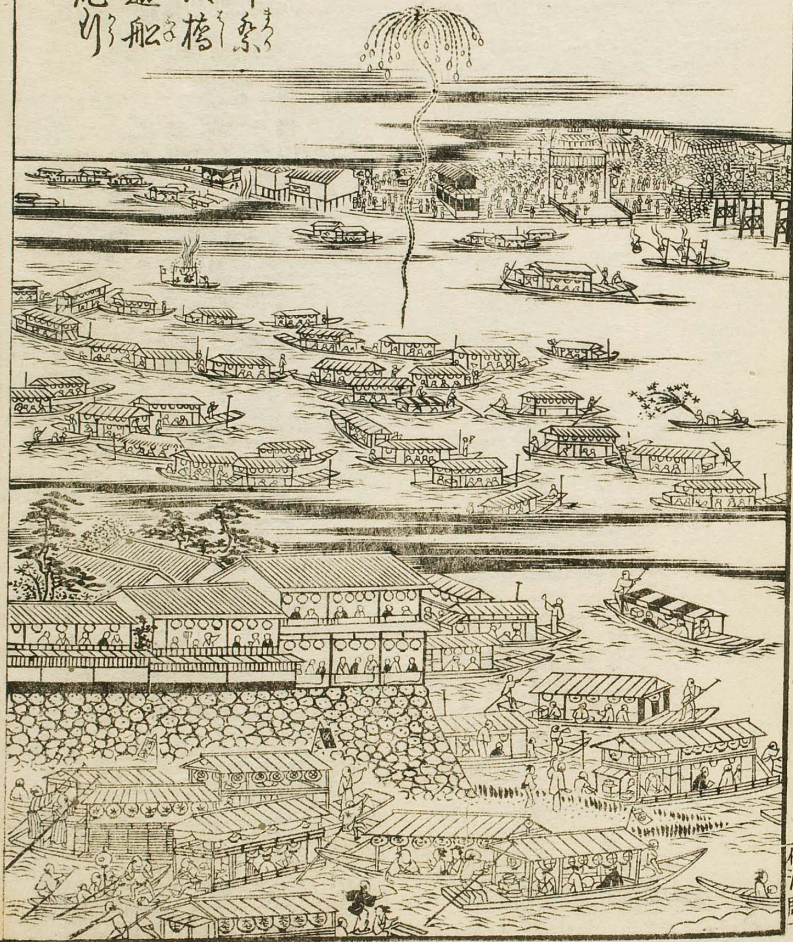


天神社



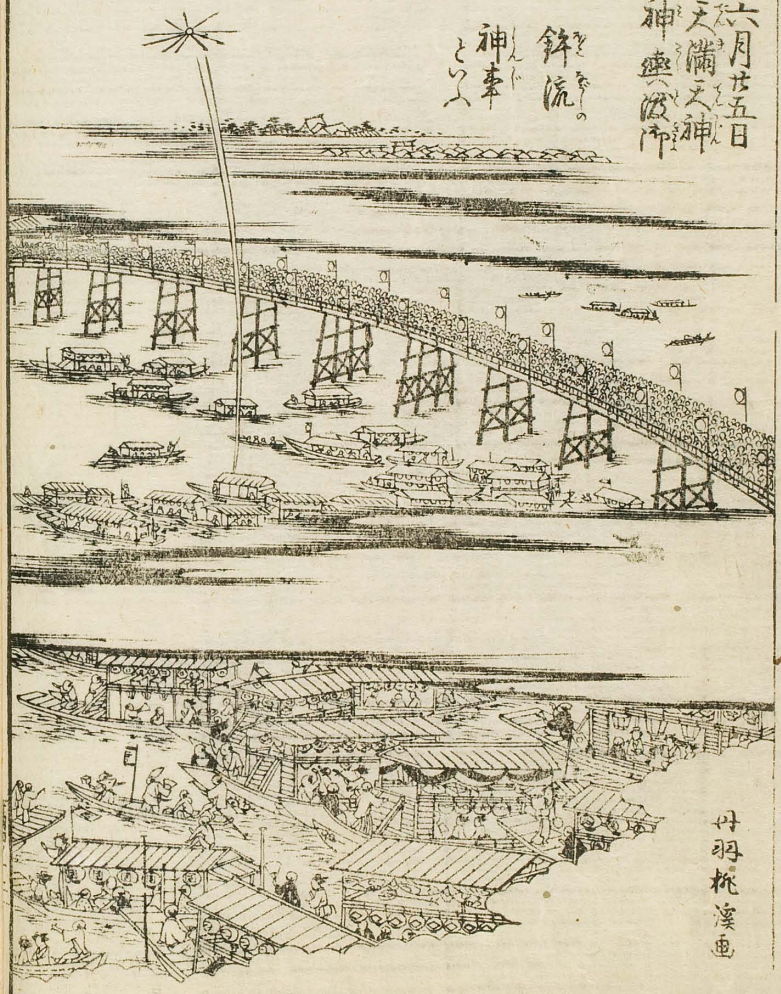
天
神
祭
夜
遊
船
花
炮

其
一



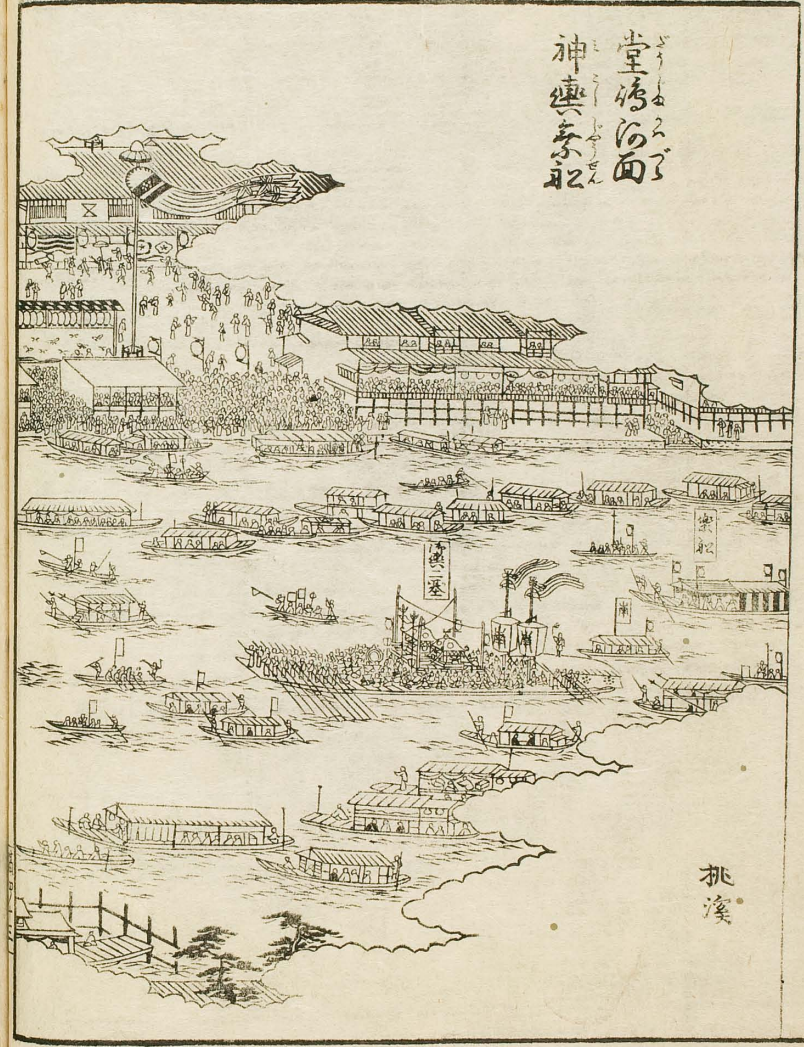
甲
澤
彫

六
月
廿
五
日
天
滿
天
神
神
樂
渡
市
鉾
流
神
事



丹
羽
桃
渡
曲

堂修河面
神樂奉祀

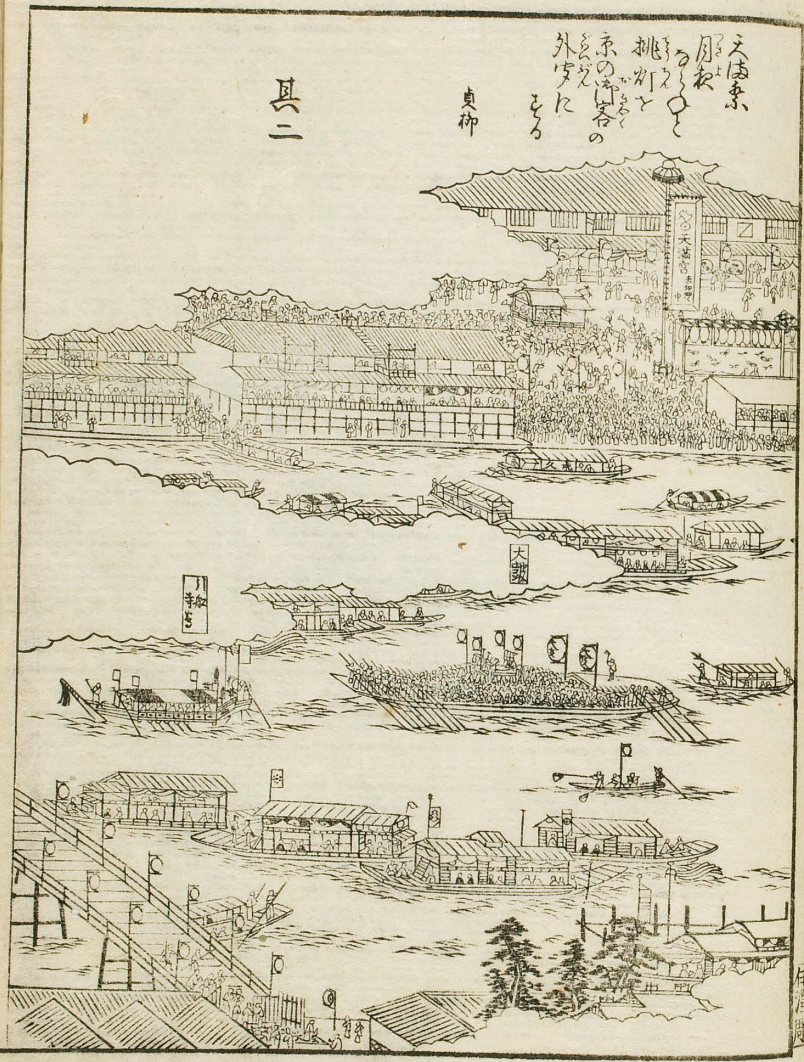


挑溪

天保東
月ね
挑り
京の
外
外
外

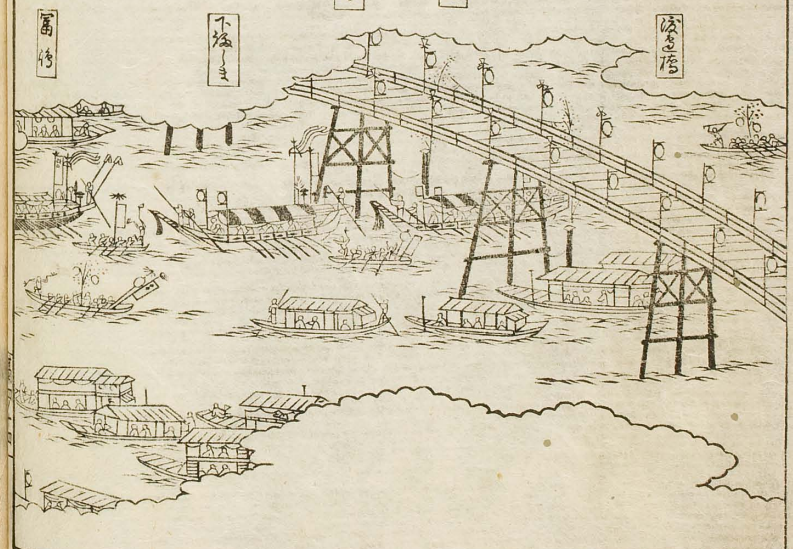
貞柳

其二

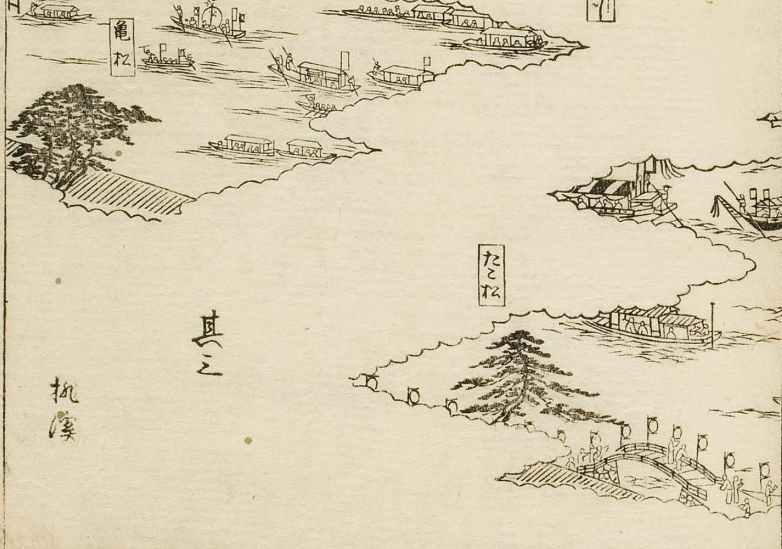


伊豆

三神系の大坂中の
 賑みくく天満本社
 より神輿(かみこ)の
 のくく難波橋より
 船(ふね)く美作の
 津(つ)彦(ひこ)の
 舟(ふね)運(は)りく福(ふく)徳(とく)
 より例(れい)ありて船(ふね)分(ぶん)
 僧(そう)つは来(き)り寺(てら)傳(でん)
 うんくうの(木)居(い)主(しゅ)と
 飾(かざ)りて船(ふね)中(ちゆう)小(せう)大(だい)船(せん)と(船)く(船)く
 真(ま)辰(しん)ち(ち)は(は)な(な)ん(なん)く(河)中(ちゆう)不(ふ)せ(せ)ま(ま)と
 真(ま)く(船)く酒(しゆ)分(ぶん)初(はつ)め(め)琴(か)ん(かん)二(に)弦(げん)也(や)
 奥(おく)く(表)の(う)ら(ら)く(事)公(こう)さ(さ)く(河)大(だい)川(せん)
 筋(すぢ)の(志)例(れい)の(諸)度(た)第(だい)月(げつ)く(船)々(さ)の(紋)比(ひ)
 桃(もも)灯(とう)と(思)く(流)光(りゆう)さ(さ)く(優)標(ひょう)と(立)く
 舟(ふね)の(ゆ)さ(さ)と(舟)立(た)り(舟)の(新)地(ち)規(ぎ)川(せん)の



三神系の大坂中の
 賑みくく天満本社
 より神輿(かみこ)の
 のくく難波橋より
 船(ふね)く美作の
 津(つ)彦(ひこ)の
 舟(ふね)運(は)りく福(ふく)徳(とく)
 より例(れい)ありて船(ふね)分(ぶん)
 僧(そう)つは来(き)り寺(てら)傳(でん)
 うんくうの(木)居(い)主(しゅ)と
 飾(かざ)りて船(ふね)中(ちゆう)小(せう)大(だい)船(せん)と(船)く(船)く
 真(ま)辰(しん)ち(ち)は(は)な(な)ん(なん)く(河)中(ちゆう)不(ふ)せ(せ)ま(ま)と
 真(ま)く(船)く酒(しゆ)分(ぶん)初(はつ)め(め)琴(か)ん(かん)二(に)弦(げん)也(や)
 奥(おく)く(表)の(う)ら(ら)く(事)公(こう)さ(さ)く(河)大(だい)川(せん)
 筋(すぢ)の(志)例(れい)の(諸)度(た)第(だい)月(げつ)く(船)々(さ)の(紋)比(ひ)
 桃(もも)灯(とう)と(思)く(流)光(りゆう)さ(さ)く(優)標(ひょう)と(立)く
 舟(ふね)の(ゆ)さ(さ)と(舟)立(た)り(舟)の(新)地(ち)規(ぎ)川(せん)の



我鳥
天満宮
御旅所

其四



神樂の遷すは及身の衣
今この所へ目あふふ
汐盆の時は満く
の入り附ひんぞれ
ども毎年の林草の
目まらう衣九つ時
すまも汐ひさす
かく門の
係り御之
安く林樂と
遷すか
さ道か其ひ
汐とひ
るうりる



大江橋

一名渡邊橋近江川の下流今の天満橋之神橋の向に架けし時
八百六十間餘今川橋敷く成つて二橋を架け一三三間橋長百十五間
八尺二寸神橋長百廿二間三尺三寸難波橋長百十四間六尺是れ
二橋とて今今の堂儀此大江橋渡邊橋の後世堂儀を築く時
貞享年中かゝる
旧名ふくまの橋

日

ワのや橋のうてとけ先をくおるる家のほりなほ
けらぬ大のはけはけらぬ人のあろとてはけらけら
公卿 倭成

前集

夜ふかしくあつても朽みや大にの橋は絶せさゆらん 今

鉾流

今の難波橋のやうに成つた之は鉾流の神事と云はれむ
今日小鉾流一其を傳りし神と云はれむ
故に和川御間川流
神橋之櫛盤慈寶珠銘云元和九年造立と櫛を東北一庁原野に
相生野と云ふ御道之北の橋也

川

御宮 文備川橋あり園花集云之和年中和乎下總守匡清侯創建
建仁寺小属後と云ふ例系四月十七日此日新入乃糸流
許し申す御宮内小觀者堂茶師堂徒衆基あり都て社頭櫻苑
多き
多き
多き

有樂齋

花の并葉の并梅の并の名氣みか九昌院のやうにあり
嘗て織田有樂好く梅をとりて

天満宮

本社中央之自在天神相殿 東ニより雄令 東ニ
法性坊尊意

西ニ 榎田表大神

西ニ 輕兎尊 村上天皇の御宇天曆年中
勅額より内々抄りて此地を建立し
孫よ今も此地を所をうりて社殿者神主社家の外は僧侶の
加れずなり

あそもらんねふ大川の夕ひる

文公地と天満と辨そるる社鎮座し之故に大將軍祠 上古源氏
一樹四隅に鎮守し之其一之 輕兎尊遷居末社 神明 八幡 住吉
故小地主神と崇奉す 十二社権現 其并 宇賀神
祇園 老ね屋 紅梅屋 俱に相殿 白太夫 坊外 揚社 福徳之新 大徳文
忠社 梅屋 任吉 松尾の二系を相殿小末治之 延喜
末社 宇賀神 吉備公等 其 末治

小籠とて封疆と築く若木植末社と遷すあり四時治人多く社内
の市店觀也煙口影植末社の鉾植泉水の金真小と居る料理月毎乃
廿日の群糸愛お道満と鉾流一の神事六月廿日之朝より御連船
そと福徳の産子のみをびる小船と飾く一様の浴衣を着し檣柏子

其外 宇賀神 吉備公等 其 末治

あまの作定ゆり 商籍中へ免歸せしを所二名めり 證歌多し 其二 二 次
くく 揚るを座の 爰世も 後世社撰くく 勢向く

押照やみはの 極に小船やめく けけ世の 麻の ちう 成す け
月かけ 瓜さく 霜かきやあつらん けけの 麻の ちう 成す け
表と 録に 録さ 免す けを 表ある 爰世の 麻の ちう 成す け

あせやいむとわらんめを玉の 爰世の 麻の ちう 成す け
雄津國風土紀云
鹿伴郡有夢野父老相傳云昔者乃我野有牡
鹿居此野其妾牝鹿居於路國野嶋彼牝鹿所
往野嶋與妾相愛無比既而牡鹿未宿牝鹿所
且壯鹿語其妾曰須父今夜夢見此雪於此夢
何祥其嫡惡夫復向妾可往乃詐相見支此夢
生艸者矢射背之上祥又雪零者白鹽中謹勿
復往其壯鹿不勝感戀復渡野嶋海中遇逢行
此野日夢野云云

明星泥 此野日夢野云云 菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
僧日羅悔 年詔費子大連兼手子大連公致事 日羅於小郡西畔上而云云

朝来比 天滿十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

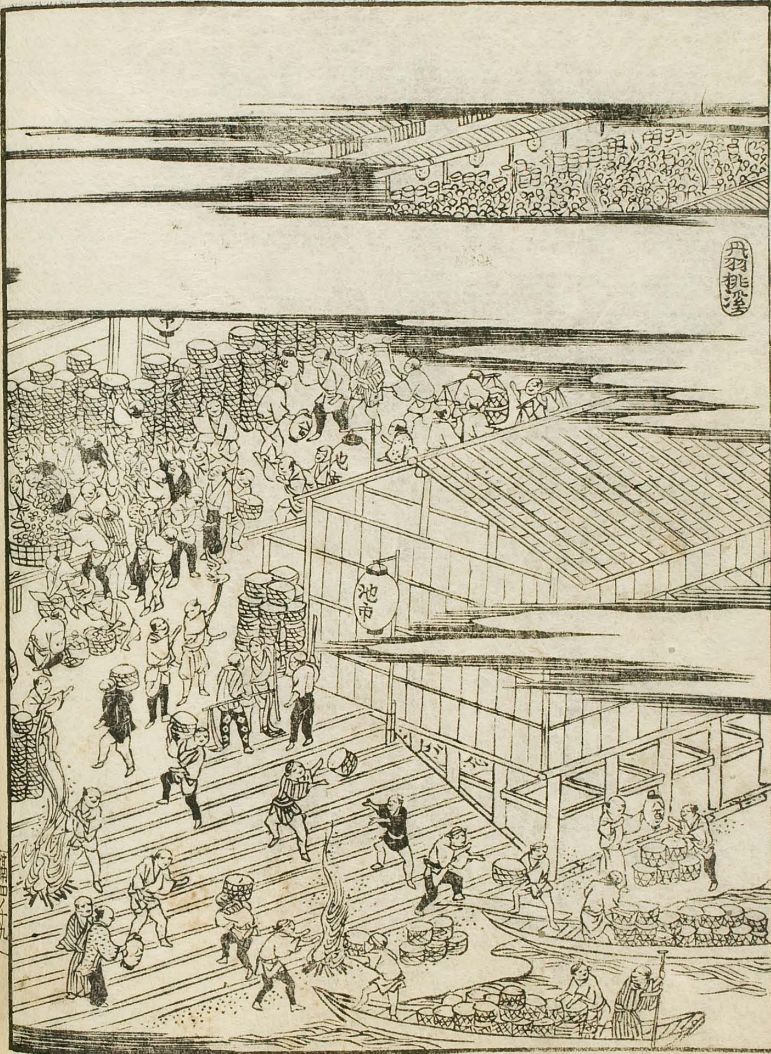
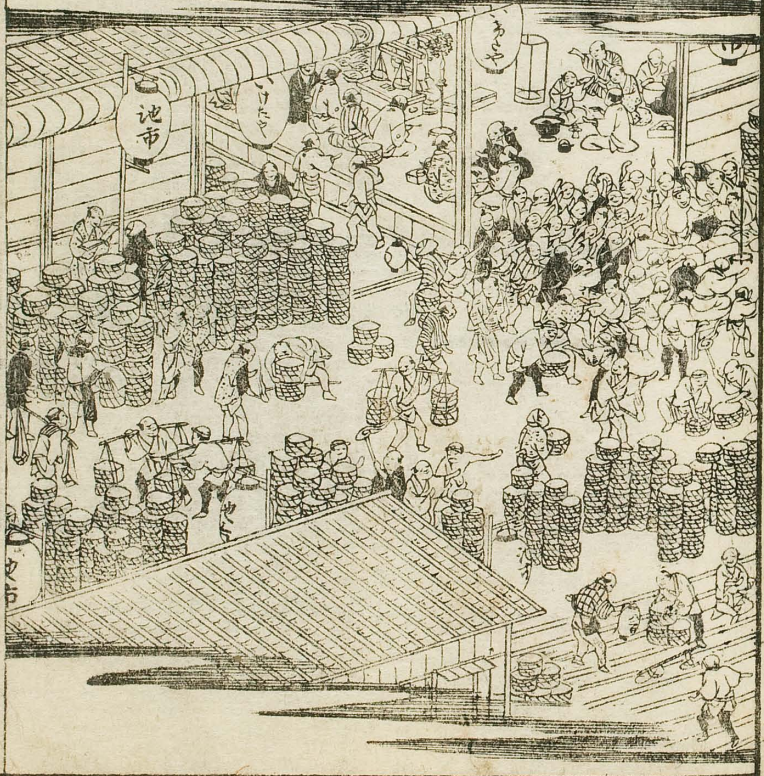
朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

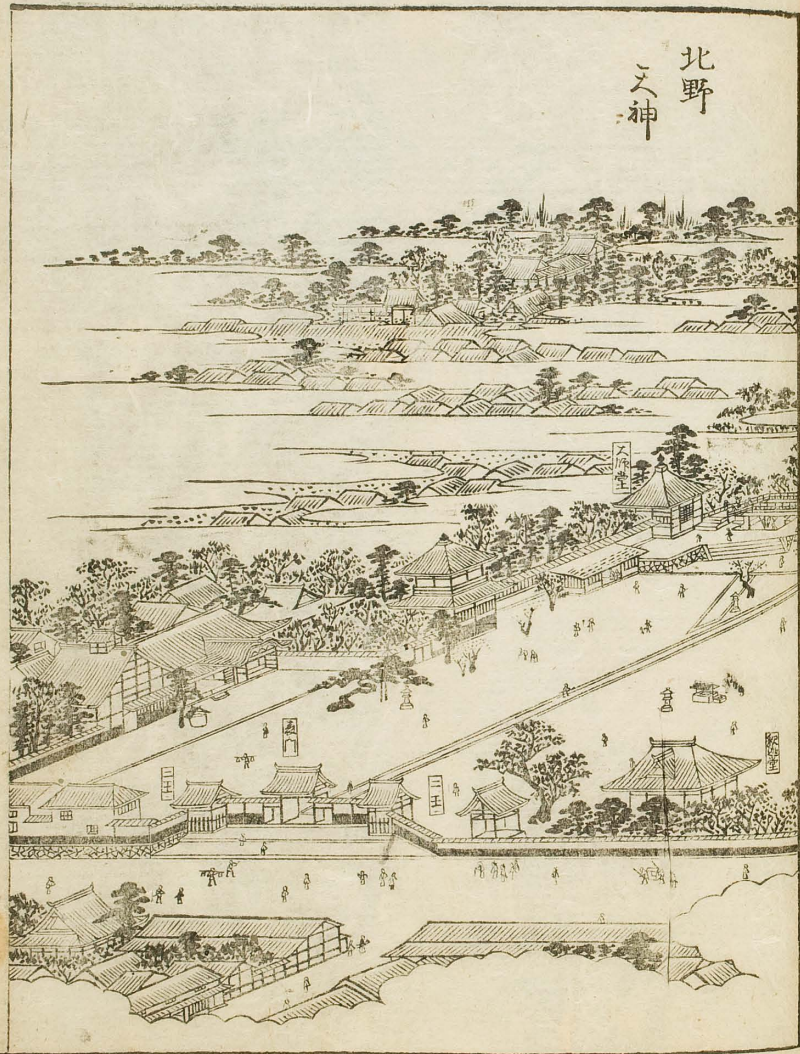
朝来比 天満十町月像女と詔町の末ふりけ比ゆ瓜耕他の用比とるふよりほり
寶珠院 天満東寺町ふり相傳菅仲初鎮座の地とむくは所ふ靈松
天滿宮 管内ふり神像長七寸高さ一初弘法大師の
興正寺 天法十町月像ふり系條七條興正寺地所之處は代傳海上人の陶基五
經子社 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
石山宗因墓 天満河川ふり中安と比源たが名今右天王命と奉侍と
二年二月廿八日没 年七十一 一説ふ七十八 茶

天満市之側
 此の市は、大坂の市より又
 毎年正月廿四日の
 夜、河津の御堂より、まぐ
 ち、上り、おん、おん、おん、
 市、か、う、り、津、欄、板、の
 物、諸、人、取、ら、れ、
 市、の、繁、華、を、見、ら、れ、
 舟、長、く、う、り、
 紀氏六帖
 芦、竹、の
 お、ひ、ま、り、の、市
 天、地、と
 人、と、の
 ち、れ、の
 さ、し、ま、り、の
 ち、り、
 ち、り、
 ち、り、

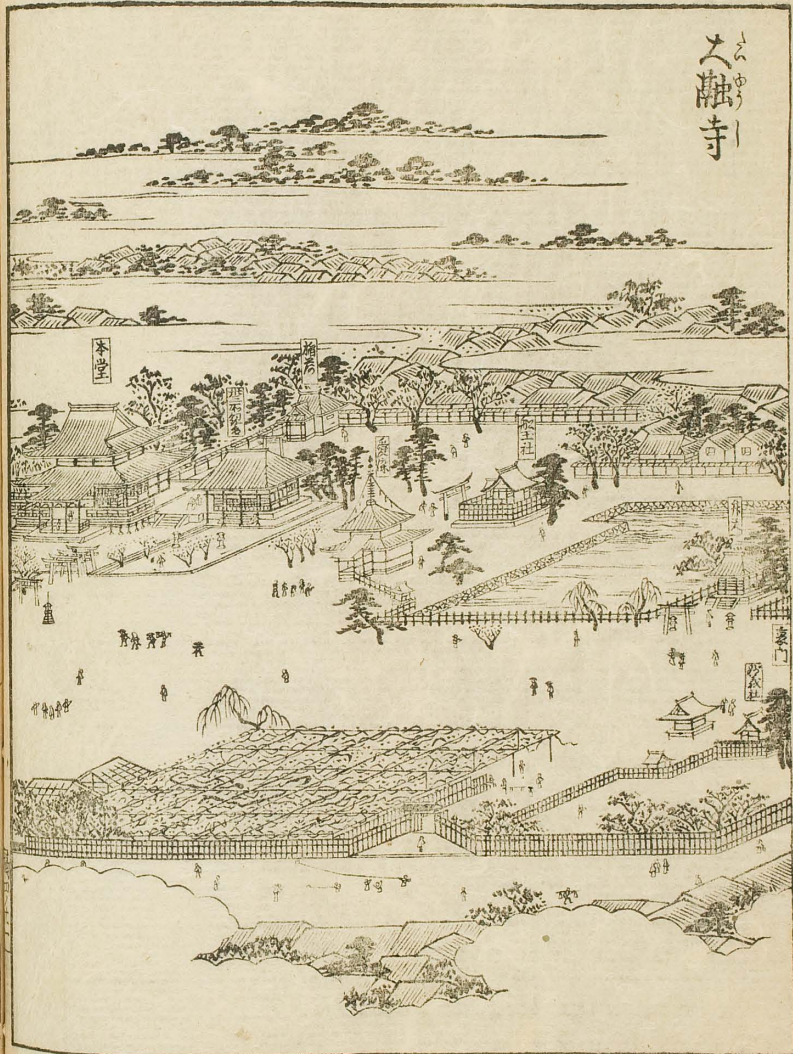


舟羽能登

北野
天神



大融寺



桂本山人融寺 北野のあり 古義真言宗

本尊千手観音 春日の他長式七寸 脇士地蔵毘沙門之安次俱弘法

護摩堂 不初多の智達大師他座依式六寸又弘法大師自他の教之

愛深堂 安及座每廿日あり遠遊さく洛く釋とら依

巡禮観音堂 肥州彌生候より寄附之 西園三十二本の 観音安次

弁天池 弁堂の 額 観世若く書依 南岳山寺

せれ富寺の難波の古寺あり用基弘法大師之弘仁年中大師あり

本村松栢生茂本下園の晴小並光赫々々々々異香芳々々々

壺樹あり昂大師あり伏々自地蔵毘沙門の二軀と刻之佛院あり

創之入其に 嵯峨天皇あり散感あり々々大徳の容あり寄附

しゆ一則あり本尊々々同帝の皇子源融公一條河原院に建之

隆奥子賀浦の燈籠と横之難波の御津の浦より日毎潮之及せ御遊

ある其にあり遊歴ありひく仁海上人其遺令之佛院に建之其の

壺樹の地あり也桂木山と號之融公の諱と必々大融寺と称及又其

以弘法大師真言の壺樹々々入星移移換々々逆乱の存諸堂荒

廢々々大門のわきまありあま之町あり今字とあり其外寶塔樓閣

の蹟みか田園の家あり浴室のわき今風呂小浴々々耕他の地あり

後世快濟上人あり今ゆ再興しむりふあり々々堂あり乃

藤波繁々々候乱々々後人の眺とありて賑之た壺利く此地名あり

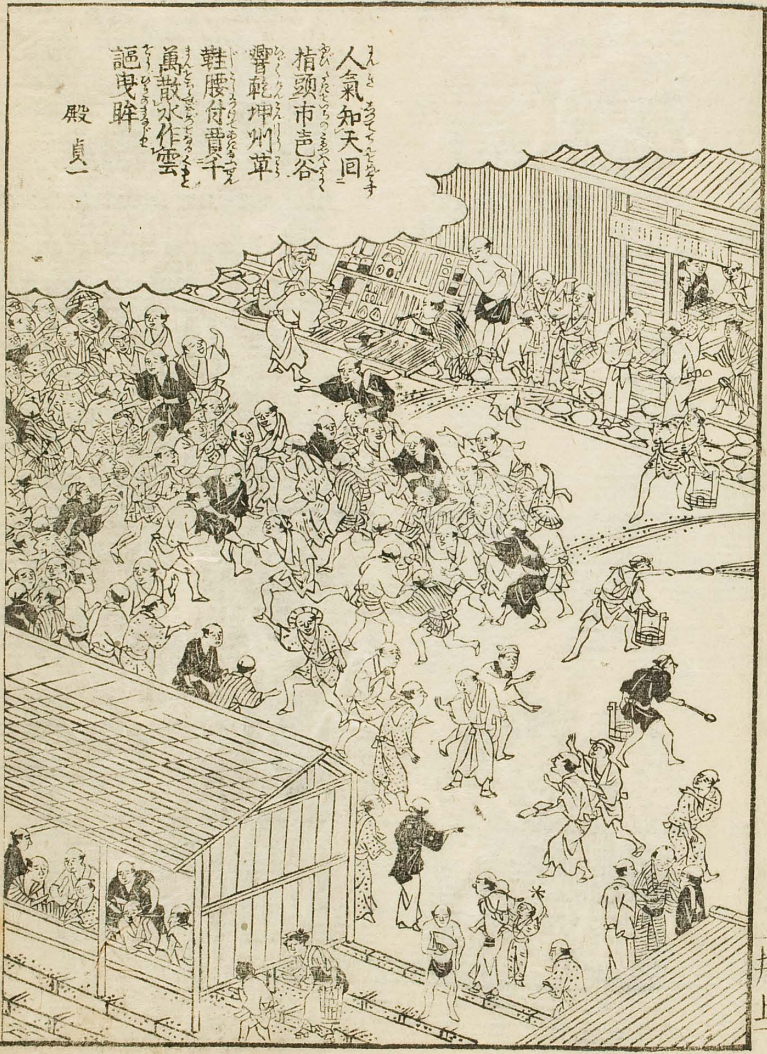
床の瓦とあり免餓野の祀あり

什寶 世尊蓮木の密塔。嵯峨帝御守。弘法大師の作あり。跡院三尊

寄附攝州倉橋庄一分新天下太平 并 欲遂二世安全之願

家附状如件

建武元年八月朔日 尊氏 在判 太融寺に



人氣知天回
 捐頭市吉谷
 響靴押州草
 鞋腰付貫千
 萬散水作雲
 謳曳眸
 殿貞一

井上



穀糶糶
 堂寫
 田功桂屋

井上

上子
 の
 二儀
 五儀
 曲持
 人の眼と
 多かるた



大坂の
 小中作
 のやう
 諸侯の
 蔵屋敷
 其國々
 の茶穀
 と改先
 派々
 仲敷
 其國々
 中其國々
 の大坂



梅田六田

丹波桃屋

堂嶋の市立を雜穀と糴糶あり其人と云ふ小早見より斜陽まで

街小聚りて招頭と揺りて百万の斛較と相對に其置りたる事ゆん

方か一其年の豊凶又一時侯の幸災天地の順不順より尊た

わつ甲とあり其高下の極と市親といふ事又須更に遠き固く

まをもしとてとわやわゆる術もあはれ粗け市の拾え原るみ

俗諺云、天正年中今の淀屋橋爪小淀屋巨菴といふ豪富乃者

あり豊太閤の旗下一多くの軍糧と運送する年々久し其恩賞を

して名画の鶏と賜ふ賞と美金の鶏と賜ふ是はむく遣唐使の侍の

玄宗帝より奉朝献せられ寶品とて巨庵が家へ倍繁榮して固々

の米粟菽麦と買核ては橋爪と今朝市と立く諸人小賈を其較

際うあはれをい家終て後今の堂嶋より市に立る事(淀屋橋遺風

ありとを聞)一或カ云今の淀屋橋とい家より架初いと又堂嶋と

ありとを聞)一或カ云今の淀屋橋とい家より架初いと又堂嶋と

堂嶋の發の後元禄年中掛初一々仁橋後田義徳王仁橋等ハ

粘りたる百万斛とてまかさ鴨斗の角れ争ひせん 九鯉

小俣やあぢ人の初一々れ 大江丸

祭天神 岩根崎小あり世人岩林崎天神と林次系村菅之柳系九月

廿日傳云むり菅之統系禰遷の時時福徳子船泊く

舟ハ大融寺仲澄ありんとも船頭をま系出者とあり公道の

やわろ霧やと船くめりたれと菅之作神海也

祭と散る浪み社を朽小なり都のこたあひの川とて

是より祭天神の弊あり又老松町あり老松祠あり惣一々いさ俗

水の新地堂老松地といつて宝永五年の御地之老小懸一々夕暮より

両側あり御の無似地や登りて芝居の射場あり西の町端に編笠

みい琴曲系弦のる簾一々芝居の射場あり西の町端に編笠

祭屋といつて江繪と製一々雀組と名つり名産と伝ふ是は備

神の餘光やぐ一

眼神八幡宮 不初寺の南あり諸人眼病を愈ふ神細工の権松人

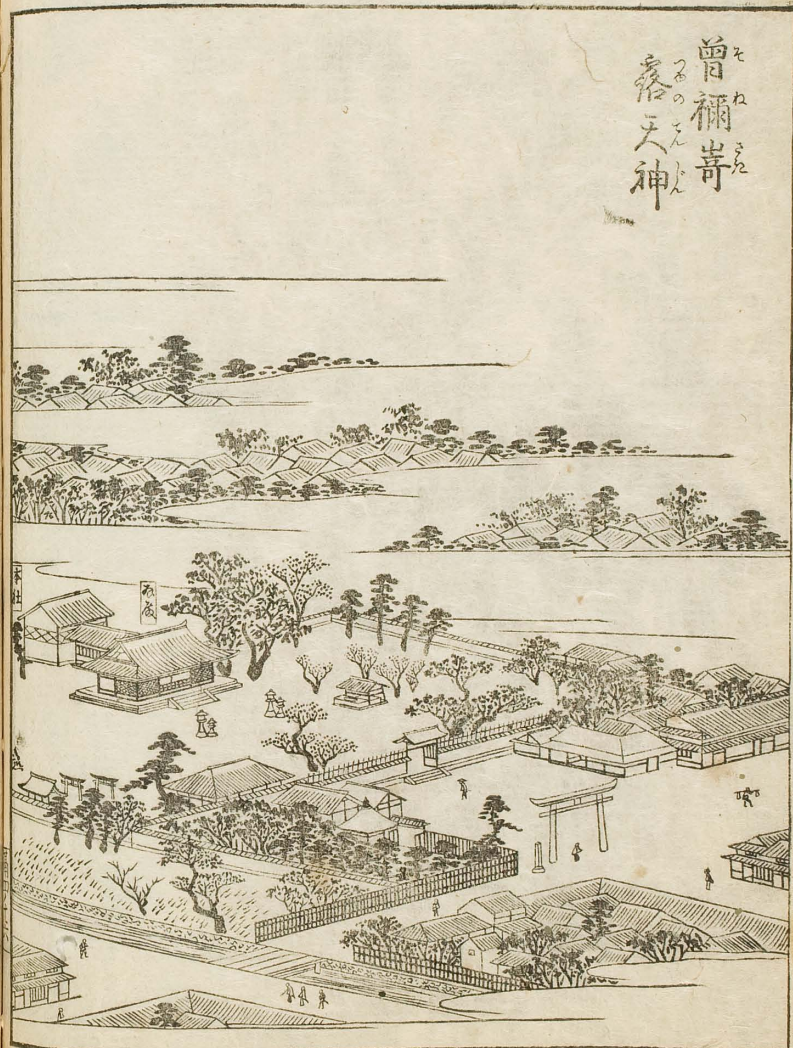
龜形 松田甚橋浦爪諸産第の遊木に格上よりたれ龍の形み見ゆ

玉井 統系殿橋南爪王氷町あり俗名を名おみりく四時湯藏みり橋

船の対し懸一々て



紀氏社
 古のまもり
 ありあけ
 長月の
 菊北
 子とあ
 五く
 天の
 考と



曾禰寄
 天の
 落天
 神

天満宮
経子宮



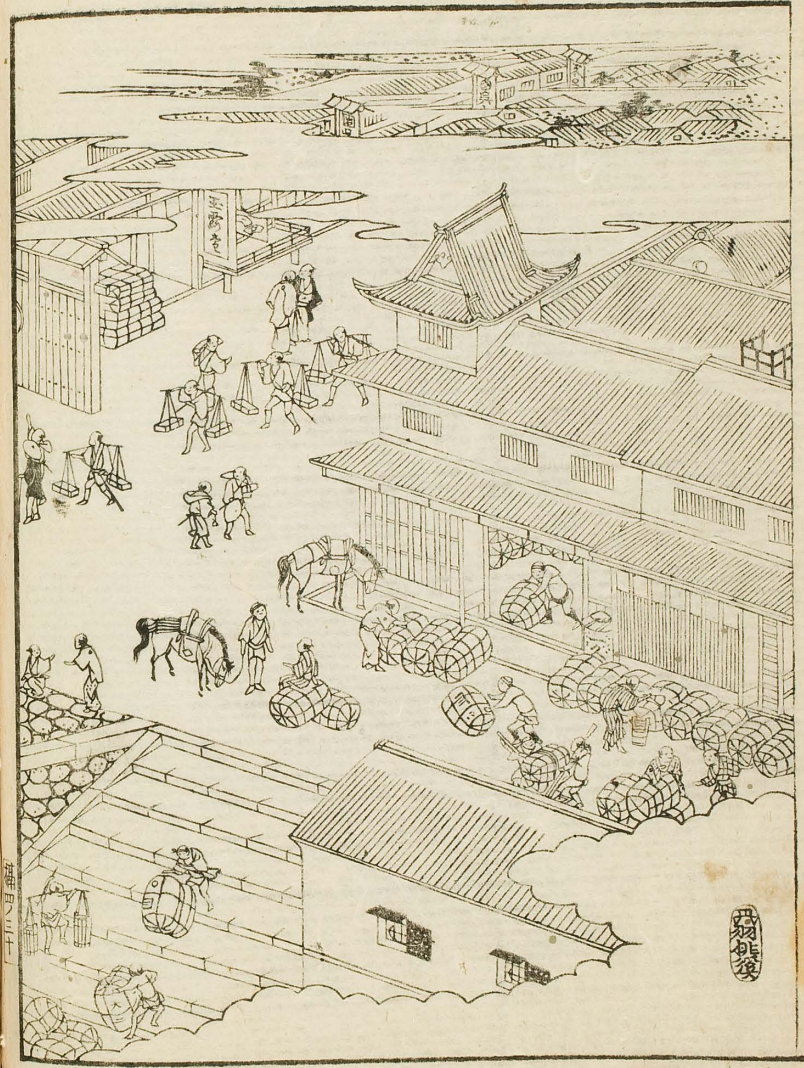
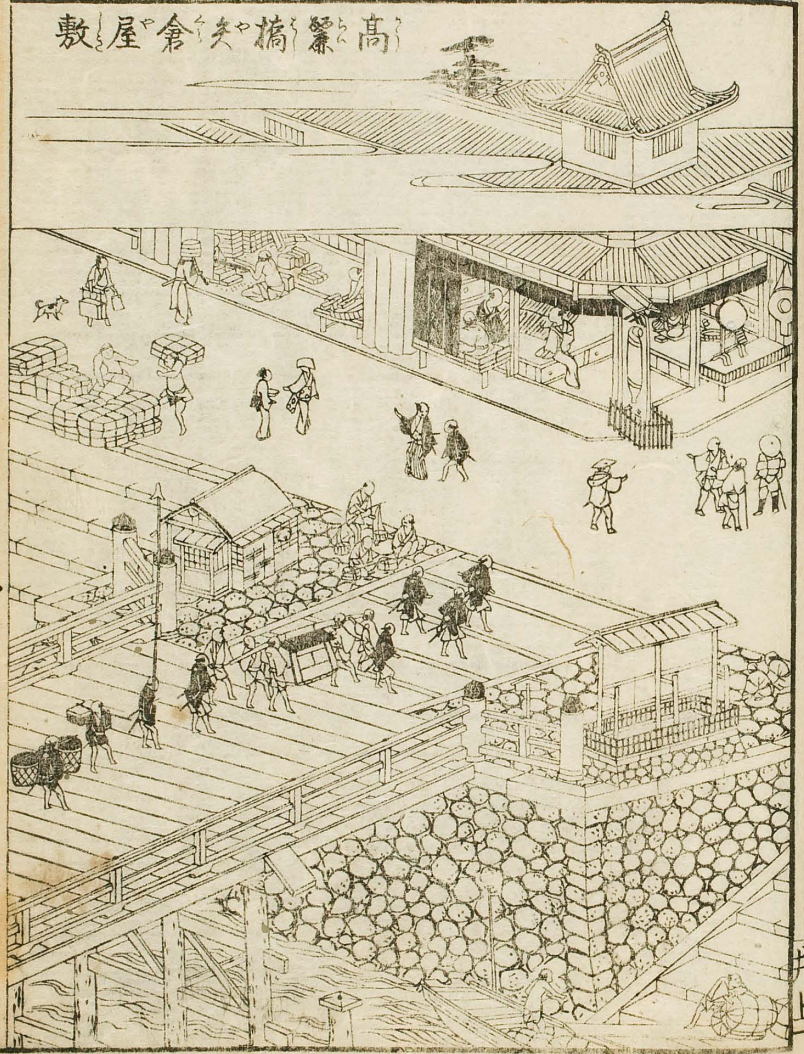
經子海也
經子
音市
圃更

大江坂鳥鐘

江坂鳥鐘
役丁更々
勤めく
登衣
非常と看
く

寬	將軍	賢	皇	源	是	鐘
永音地一清仁國大華銘者矣千日萬使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左
十無祇百平者家樹鯨金也蓋期懸歲氏裕臣甲銘	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左
一盡劫八世有父作鍊夫古西新之鈞戊日	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左
月時石声界勇母形五無亦有夕擊之祈誓	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左	疑道君皎帝使寬左
野	闕	有響通護丹無私慈	晨昏報之	不貴鉞	聽勤鐘聲	者降臨魔速破群
釋龍	逢	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
巖	闕	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
叟	茂	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
書	李	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	秋	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	日	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	藤	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	原	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	家	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	次	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	結	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	衆	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群
	等	日天神	鳴枝	鉞	聲	者降臨魔速破群

高橋繁知倉屋敷



後羽



六羽担

本店

井上



三井
呉服店

秋の
織物
新
子
共角

蔵甲店

金七店

新田町



御
茶菓子店

虎屋



高瀬橋
虎屋春蘭店

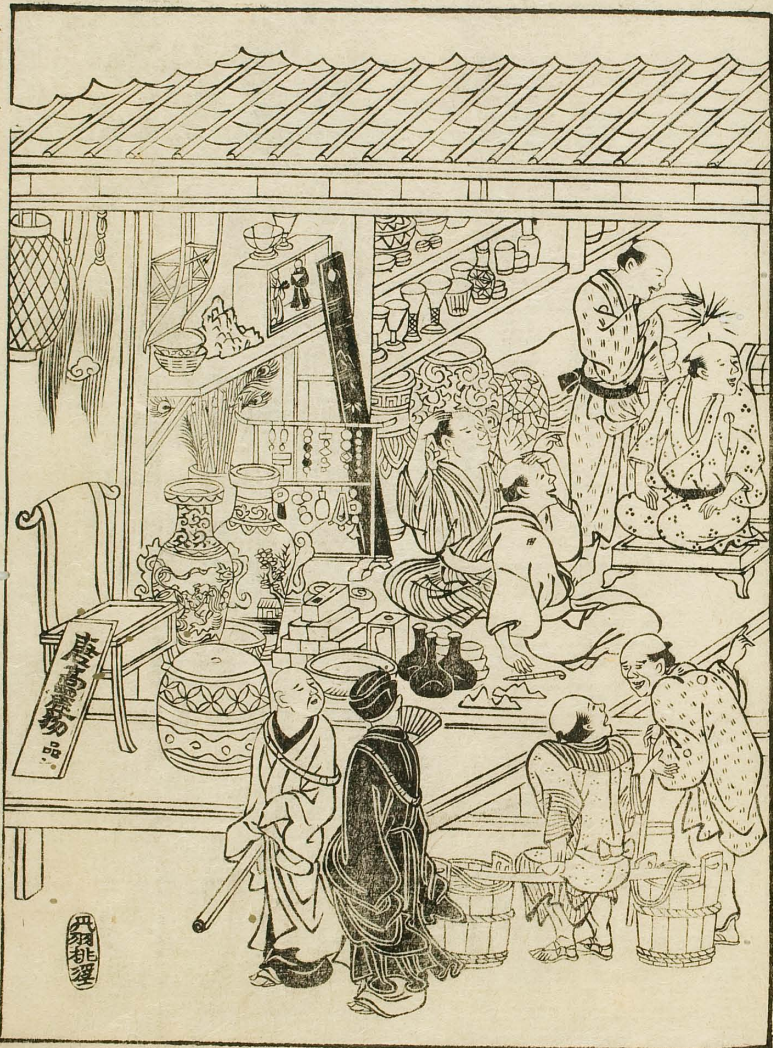
虎屋饅頭絶五文
店前終日百花群
信牌通用實銀札
千里美名似走雲

藤原

御菓子所

藤原

福田



新編
 日本
 街市

圓御靈社



○鳥居額 正位御靈
大明神
持明院家の御宇に

○二層居額 大宮

ト部家の御宇に
いも居御朱塗之

○神水井 神樂の
月あり

○神樂所 本社の
ふわり

○神樂舎 神樂
二神樂

神樂所

観音

鳥居

表門

補冊三十五

宗源鎮護殿



本社の森の隅にあり
大社と云ふあり十種
宗源鎮護殿

行法の社成故世俗
とれぬ宗源と云ふ

○菟布良祠 本鎮護堂
地と云ふ

○輪荷祠 檀田老祠

○朝吉祠 宇賀村
と云ふあり

○基活祠 村立先祖
屋と云ふあり

○末社相倉十二社畧之

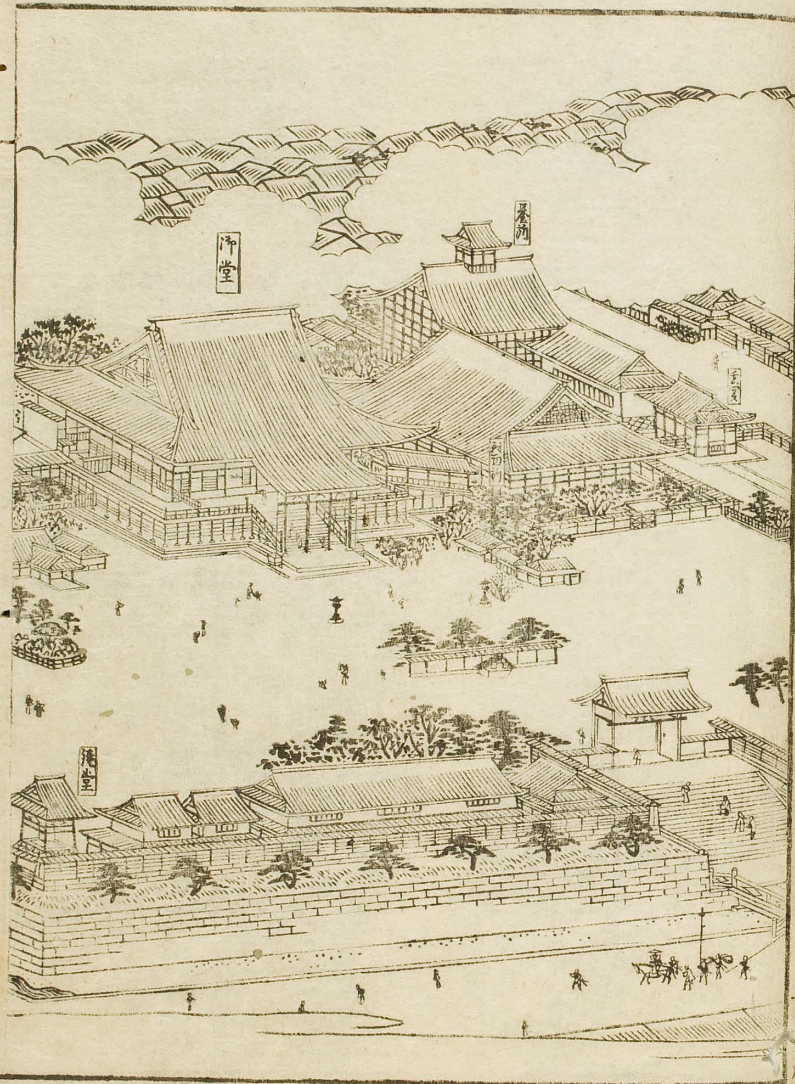
○観音堂 本寺土面
観音若瓜
安坐於此觀音所旭
之坂觀音の其一也

林王

本社

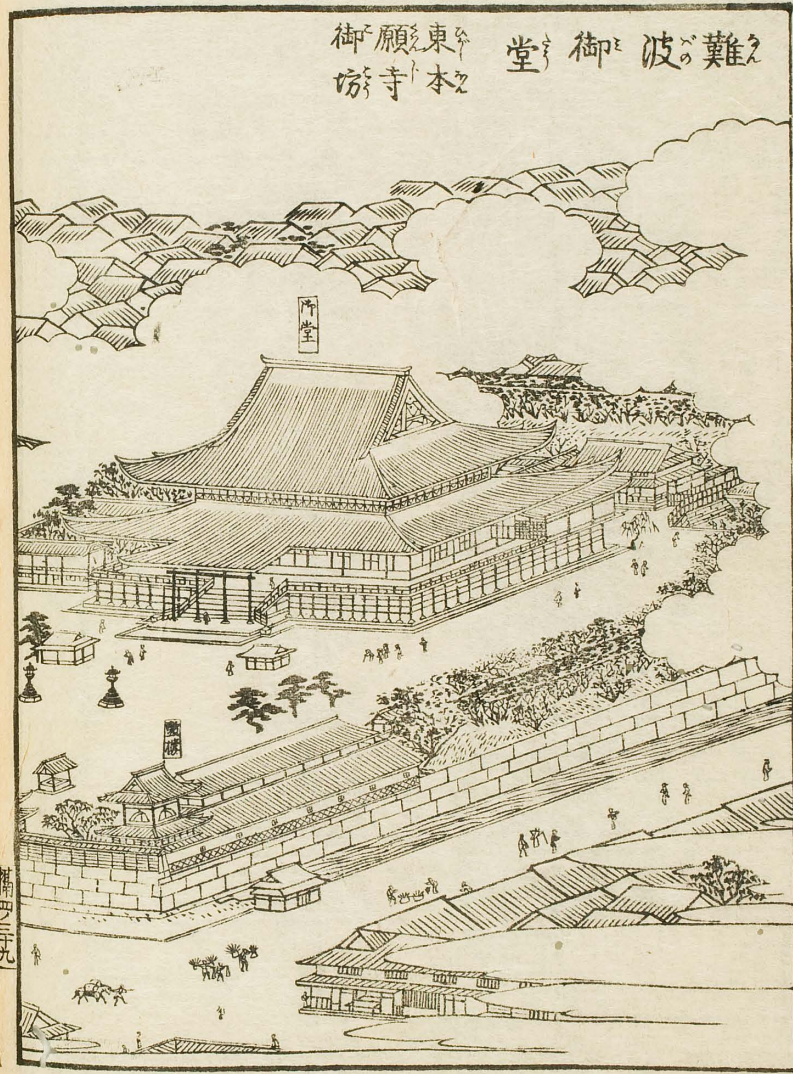
本堂

宗源



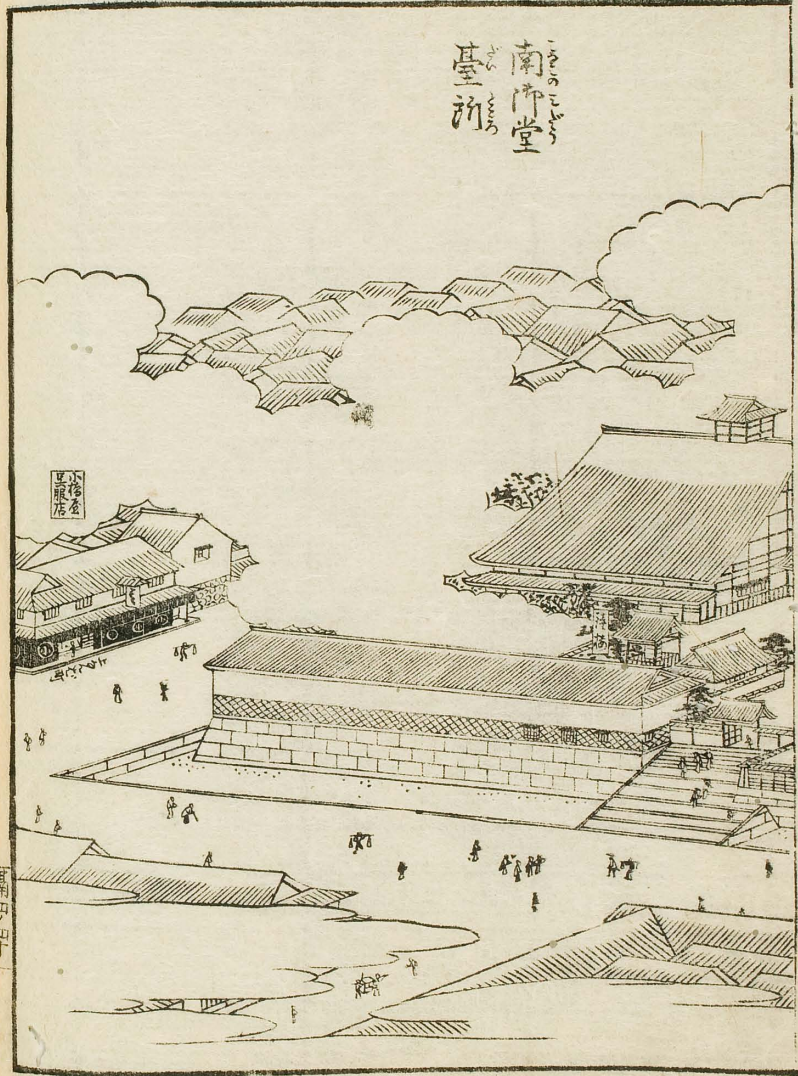


難波御堂 東願寺
 本之



彌陀三光

南禅堂
南禅堂
南禅堂



難波御堂

南禅堂久大寺町あり、裏御堂又南禅堂とも称す

本尊阿弥陀佛

安永の住長三守計兩脇楯本祖師親嘗上人承任上人の

對面所

南禅堂の南、對面所の、書院、鐘堂、鼓樓、南禅堂の良

唐門

南禅堂の茶、唐門の内あり、茶所、唐門の後の方

中興第十二代教如上人、將軍家より、台令次第しく、此の難波御堂と称す、初文禄年中、乃依町を町目あり、酒造御堂と、艶歌や、休比、夜あり、夜繁植の石多く、此の方へ、遷居、茶の上、映山、山躰、躰と多く、柱、盛み、花、色、爛熳、や、

享保十年己十月、南禅堂の御堂、東御門跡、南禅堂の時里村、昌繁、え、ひ、を、なり、き、狂、一、首、あ、書、

足引のふり、南禅堂の恩、お、痛、か、う、う、荒、生、海、後、年、

繕も、これ、ね、ち、く、ひ、れ、組、な、れ、ち、く、月、と、南、茶、は、く、り、や、

物の名も、ふ、り、う、て、去、る、れ、南、益、も、い、わ、ら、う、つ、と、も、

南禅堂と頂戴、

上難波
仁徳天皇社

新皇
今とあか
民のあか
ちん
た
後



ま
大宮の
乃
天
半
正三位知東



文
燗
糸
中
糸
茶
左
心



川羽能登

順
慶
町
井
戸
過
夜
店



輝日田

油多比藏

安堂寺町を町目の欄小堀に石佛の者佛と稱ぐ故に名あり
橋津志曰日本紀小見く安堂寺の石佛の背向小云平十一年
安堂寺の鐘ありとゆん今安堂寺の鐘ありとゆん
今安堂寺町の安堂寺の鐘ありとゆん

難波系師

法町心糸橋車町小あり奉尊系師佛弘法之師の能みく
長八寸三歩古之台の佛院あり難波系師堂と號し年久
しく荒廢五乃ん奉尊と民家小傳と近世さく
安堂及毎月八日十二日難波系師とく法舎あり

現成比治

今此井ありむいん産れ比治とく巡り小行業の茂と生れ
今此井ありむいん産れ比治とく巡り小行業の茂と生れ

梅檀本

梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本
梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本梅檀本

朝日神明宮

朝日神明宮朝日神明宮朝日神明宮朝日神明宮朝日神明宮
朝日神明宮朝日神明宮朝日神明宮朝日神明宮朝日神明宮

寶泉寺

寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺
寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺寶泉寺

奉尊正觀若

奉尊正觀若奉尊正觀若奉尊正觀若奉尊正觀若奉尊正觀若
奉尊正觀若奉尊正觀若奉尊正觀若奉尊正觀若奉尊正觀若

松屋町 神明



茶湯地蔵



備前守

薬師堂

北谷町小あり茶師の石像あり長き尺五寸許其外大坂市中
 出世茶師ハ切基ハ他より初ハ天備小あり今坂江新地小安並
 又空齋堀帯在町小ありハ茶師伴ハ急心の他又四軒町小あり
 長を尺三寸許ハ愛深明王公安次同他ハ観世多ハ安次
 去日の他ハ又常安町の茶師ハ同他ハ不初ハ覚渡上人
 の彫刻トヤ又小右衛門町の茶師ハ長九寸許ハ急覺又師
 此他ハ又日向町の茶師ハ金像ありハ長四寸許ハ急覺又師
 左内親山長者ハ守奉尊ハ初ハ農人町ハ安並ハ側小清水
 あり故ハ清水茶師ト呼ハ又安治門南側小ありハ茶師
 伴ハ急覺又師の他よりハ立像を尺六寸許脇士ハ十二
 代ト又ハ

茶湯地蔵

農人橋條百南長者の角小あり石像あり長尺八寸許乃との
 茶湯と供ハ急覺ありハ故ハ名ハ

聚樂館古蹟

南谷町の東聚樂館ありハ秀次公ハ後慶長のころハ
 茶師聚樂館と云ハ小ありハ又側小愛宕井トあり

醫生貞宜堂

聚樂町あり寛文のころハ名醫ありハ立巻ト稱ハ其壁山
 隠元和尚友ト其ハ不司代板倉周防守殿ハ急覺帶
 あり額ハ隠元若次堂ありハ石燈籠ハ急覺の横形ありハ急覺堂
 寂小城代阿部佐中候板倉周防守候の書翰多ハ今小終ハ浪弄
 の名醫ト云ハ寂方の御袋子世小名



諸社の宴会も女伶妓婦の宴
 盛の白ふらや身み錦繡
 と結ひあひし女も男も
 老の風俗も
 後松子も琴之弦胡弓大鼓
 笛もくつさぬ
 やり踊りやと遊物や
 御津八幡の系
 各み一人の内に
 女伶風流も
 練あうくまの
 ちんちん人形
 の家共み
 飾くま小艶と
 々々足玉
 人も
 酒の初め



十一

揚屋の
 一軒
 髪波の
 舞
 其の人
 朝の
 一團更



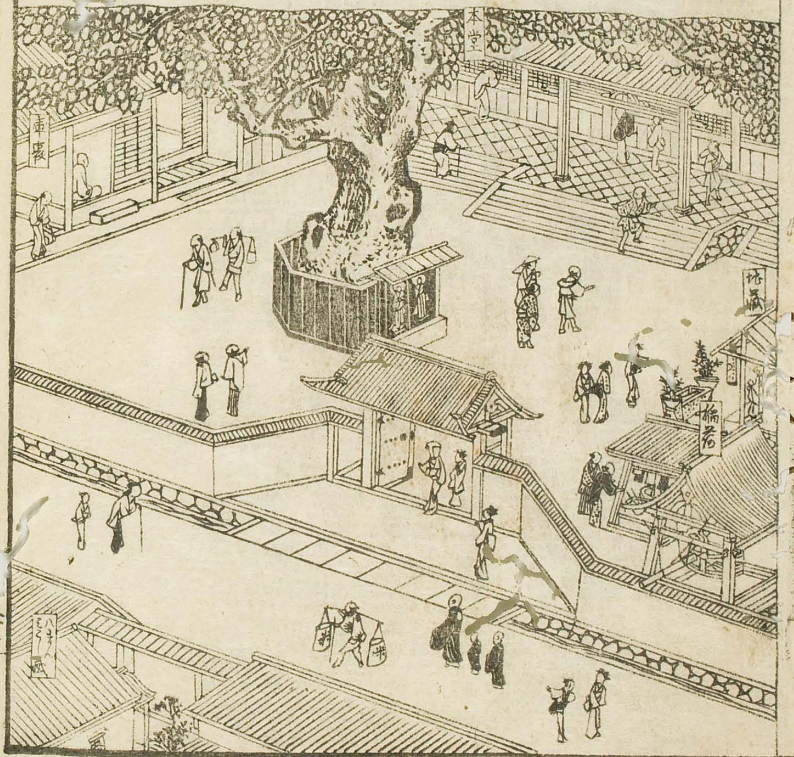
六羽排

三津寺

宛本堂



名木楠



五十一

WALDE

